

春日版『五部大乘経』の底本とされた宋版一切経(二) ―本文の比較による検討―

佐々木 勇

(受理日二〇一六年十月六日)

一、本稿の目的と対象資料

本稿は、本誌前号〔広島大学大学院教育学研究科紀要〕第二部第64号、二〇一五年十二月)掲載の佐々木 勇「春日版『五部大乘経』の底本とされた宋版一切経(一) ―刻記の比較による検討―」(以下、前稿とする)につづくものである。次号に掲載予定の続稿(三)をもって完結する。

本稿の目的は、前稿に同じく、春日版「五部大乘経」の中で宋版一切経に基づく経は、宋版一切経の内どの版本に依拠したのかを特定することである。研究対象および比較資料は、左の通りである。詳細は、前稿を御覧頂きたい。

【春日版五部大乘経】¹⁾

①愛媛県砥部市光明寺蔵本ならびに②滋賀県北小松樹下神社蔵本。

【宋版一切経】

東禅寺版、東禅寺版補刻本、開元寺版、思溪版。

二、研究方法

一連の拙稿(一)～(三)では、右の鎌倉後期刊刻春日版五部大乘経と宋版一切経諸本とを、以下の観点から比較する。

A. 刻工名・帖末刻板数・帖末釋音・捨錢刊記・総字数・帖末記文の宋版刻記を引き継ぐか否か。宋版刻記が有る場合は、どの宋版のものかを調べる。

B. 経本文を比較することで、底本を特定する。
C. 釋音本文を比較することで、底本を特定する。
D. 宋版に基づく春日版経に、春日版独自の点は無いか。有るならば、それは何かを探る。
本稿では、B. 経本文の比較結果から春日版五部大乘経の底本を特定することを試みる。

C・Dについては、続稿(三)で述べる。

鎌倉後期刊刻春日版五部大乘経の底本は、刻記による比較検討から、次のように推定された(前稿、参照)。

1 『大般涅槃経』―東禅寺版補刻本。

2 『大般涅槃経後分』3 『大方広仏華嚴経』4 『大方等大集経(日藏経・月藏経を含む)』5 『摩訶般若波羅蜜経』―思溪版。

本稿では、まず、宋版の刻記から底本を推定した右諸経について、宋版の経本文と比較する。それによって、宋版が底本であることを確認する。

次に、宋版の刻記が見られなかった諸経を宋版の経本文と比較した上で、それら諸経の底本について考察を加える。

三、経本文比較による底本宋版の確認

1. 『大般涅槃経』

光明寺蔵本『大般涅槃經』卷第六（遺存する最初の巻）本文について、春日版と東禪寺版・東禪寺版補刻本・思溪版とを比較すると、次の異同が見られた。

春日版と諸本との異同を出現順に記す。挙例にあたり、参照の便のため、『大正新修大藏經』における所在を上段に記す。本文が春日版と同一の場合は、(同)とする。相当本文が当該本に無い場合は、／を置く。以下、同じ。

所在	春日版	東禪寺版	東禪寺版補刻本	思溪版
0396c16	曇無讖於姑臧譯	(同)	(同)	曇無讖奉詔譯
0396c17	如來性品第四之三	(同)	(同)	大般涅槃經如來性品第四之三
0397a11	煩惱所障	(同)	(同)	煩惱所障
0397a19	往返周旋	(同)	(同)	往返周旋
0397b07等	空中左脇	(同)	(同)	空中左脅
①0397b13	其家婢使	其家婢便	其家婢便	(同)
②0397b16	彼今不應	彼今不應	彼今不應	汝今不應
0397b20	大般涅槃	(同)	(同)	於大般涅槃
0397b21	爲歸依處	(同)	(同)	爲依止處
0397b29	修學禪道	(同)	(同)	脩學禪道
0397c03	詐作健相	(同)	(同)	詐作健想
0397c04	唱呼大喚	(同)	(同)	唱乎大喚
0397c09	汝當精勤	(同)	(同)	汝當精勤
0397c19	性甚妬慳	(同)	(同)	性甚妬弊
0397c26	皆悉恐怖	(同)	(同)	皆生恐怖
0398a01	乃生怖畏	(同)	(同)	不生怖畏
③0398a11	百十億劫	百十億劫	百十億劫	百十億劫
0398a13	我涅槃	(同)	(同)	我般涅槃
0398a24等	食粳梁	(同)	(同)	是粳糲
0398a29等	食於稻糧	(同)	(同)	食於粳糲
0398a01	險難惡處	(同)	(同)	險難惡處
0398b09	若有書寫	(同)	(同)	若自書寫
0398b14	無量衆得	(同)	(同)	無量衆生得
0398b21	當善受持	(同)	(同)	應善受持
④0398c07	連恒河沙	連河沙	連河沙	連河沙

0398c08	發菩提心	(同)	(同)	所發菩提心
0398c26等	若有衆生	(同)	(同)	若有
0399a05	讚誦禮拜	(同)	(同)	讚誦禮拜
0399a14	今日	(同)	(同)	今人
0399b17	雖未受戒	(同)	(同)	雖未受具
0399b20	位階十地	(同)	(同)	位階十住
0400a20	而共食之	(同)	(同)	而服食之
0400b10	未曾見聞	(同)	(同)	未曾聞見
0400c01	護歎護法	(同)	(同)	讚歎護法
0400c27	是名奉戒	(同)	(同)	是名本戒
0401a04	芸除禪	(同)	(同)	耘除禪
0401a26	八事應受	(同)	(同)	八事爲受
0401b01	祇桓精舍	(同)	(同)	祇洹精舍
0401b04	天中天唯	(同)	(同)	天中天蠲
0401b05	若有受者	(同)	(同)	有受畜者
0401b06	同其僧事	(同)	(同)	同僧事
0401b08	果已而使	(同)	(同)	果而使
0401b14	肉眼然	(同)	(同)	肉眼故
0401b18	喻如彼人	(同)	(同)	猶如彼人
0401b23	以披袈裟	(同)	(同)	以被袈裟
0401c06	應當譴知	(同)	(同)	應當譴知
0401c10	如來密誦	(同)	(同)	如來密誦
0401c19	覺了覺了	(同)	(同)	覺了了
⑤0401c25	爲其現經	爲其執役	爲其執役	爲其執役
⑥0402a24	應衆生故	度衆生故	度衆生故	度衆生故
0402b28	貿易所須	(同)	(同)	貿易所須

右の異同表から、春日版『大般涅槃經』が、思溪版ではなく、東禪寺版に基づくことは明らかである。④は、書陵部蔵補刻本のみ「恒」を補っており、春日版はその東禪寺版補刻本に等しい。①「便」は、東禪寺版補刻本では版面が欠損しており、「使」のように見える。⑥「度」も、東禪寺版補刻本で文字の一部を欠く。「應」が多出する箇所であるため、これと誤ったものであろう。

春日版と東禪寺版とが異なる②③⑤は、思溪版も東禪寺版と等しい。春日版の誤刻または改変であろう。

したがって、春日版『大般涅槃經』が依拠したのは、東禪寺版の補刻本である。これは、前稿における刻記の比較による底本推定結果と等しい。

2. 『大般涅槃經後分』

右と同様に比較結果を示すと、次の通りである。なお、東禪寺版と開元寺版の經本文はほぼ等しいため、以下では同一欄に記し、両者異なる場合のみを挟んで両者本文を記す。

所在	春日版	東禪寺版・開元寺版	思溪版
0900a05	唐南沙門若那跋陀羅與沙門會寧等譯	唐南海波凌國沙門若那跋陀羅共沙門會寧譯	(同)
0900a07	大般涅槃經橋陳如品之末	橋陳如品之末	(同)
0900a12	欣慶無量	忻慶無量	(同)
0900a13	即時鬚髮	即時鬚鬢	(同)
0900a13	灌注心源	灌注心夙	(同)
0900a21	慈愍無量	慈愍無量	(同)

以下同様に、春日版本文は、東禪寺版・開元寺版と異なり、思溪版と一致する。右に続く具体例の掲出は、省略に従う。

さらに、春日版巻下末には、尾題に続き「新經後記」「大涅槃經後序」が見られる。東禪寺版・開元寺版に「新經後記」「大涅槃經後序」は無く、思溪版には存する。その春日版巻下末の後記・後序の文章は、思溪版と全同である。

よって、春日版『大般涅槃經後分』は、思溪版に基づく。これも、前稿における刻記の比較による底本推定結果と等しい。

3. 『大方広仏華嚴經』

春日版『大方広仏華嚴經』は、前稿で指摘したとおり、分巻法・分函法とも思溪版に一致し、東禪寺版・開元寺版とは異なる。思溪版に基づくことが明確であるため、本文比較対照結果の掲出は省略する。

4. 『大方等大集經』

光明寺蔵春日版『大方等大集經』のうち、首尾完存する最初の帖である巻第二の經本文を、東禪寺版・思溪版と比較する。

所在	春日版	東禪寺版・開元寺版	思溪版
0009a06	菩薩品第二之二	菩薩品 之二	(同)
0009b11	爲利益	爲利益	(同)
0009c14	寂靜光無礙	寂靜光無暗	(同)
0009c29	我說無量光	佛說無量光	(同)
0010a01	即得此諸光	(同)・即得此諸光	(同)
② 0010a23	二者慢	一者慢	一者慢
③ 0010b20	如是邪見	如是所見	如是所見
④ 0010c29	衆生繫縛	衆生繫屬	衆生繫屬
⑤ 0011c15	爲客煩惱	爲欲煩惱	爲欲煩惱
⑥ 0011c22	無想無緣	無想	無想
⑦ 0011c24	是名無想無緣	是名 無緣	是名 無緣
⑧ 0013a12	無衆生義	無衆生	無衆生
⑨ 0013c05	法雨於衆生	衆生雨於生	(同)
0013c05	無果果	無果	(同)
0013c15	所修菩提	所得菩提	(同)
0013c21	其悲心	甚悲心	(同)
⑨ 0014a09	佛諸弟子	諸佛弟子	諸佛弟子
0014b05	成佛之時	成佛佛時	(同)

以上、春日版は、東禪寺版・開元寺版より、思溪版に近い。前稿の刻記比較結果の通り、春日版『大方等大集經』も、思溪版本文に基づく判断される。ただし、思溪版にも春日版と異なる箇所①～⑨が有る。この中、①②④⑨は、春日版の誤刻であろう。

しかし、③⑤⑥⑦⑧は、春日版が他本を参照して、思溪版本文を改変したものと思われる。たとえば、聖語蔵藏神護景雲經本は、③「邪見」、⑤「爲客」、⑥「無想無緣」、⑦「無想無緣」、⑧「無衆生義」と、春日版と同一本文である。春日版は、⑥「無緣」の二字を挿入するため、前行および本行を十八字とする。⑦でも、春日版はこの行と次行とを十八字にして「無想」を補入している。

これらのことから、春日版は、思溪版を単に覆刻したものではなく、伝統

的な日本古写経系の本文を取り込んでいることが知られる。⁶⁾

5. 『摩訶般若波羅蜜經』

『摩訶般若波羅蜜經』は、東禪寺版・開元寺版と思溪版とでは、調卷法や品名に異同が存する。

全三十巻のうち、諸本で品名の異同が存する巻の各巻巻頭品名を示す。

卷	春日版	東禪寺版・開元寺版	思溪版
卷第六	廣乘品第十九	發趣品第二十	(同)
卷第七	勝出品第二十二	會宗品第二十四	(同)
卷第十五	經耳聞持品第四十五	選耳聞持品第四十五	(同)
卷第二十二	屬累品第六十六	囑累品第六十六	(同)
卷第二十四	道樹品第七十一	種樹品第七十一	(同)

右のとおり、春日版の品名は、思溪版と総て一致する。

経本文も、春日版は思溪版と基本的に一致する。⁷⁾

よって、前稿の刻記比較結果の通り、春日版『摩訶般若波羅蜜經』も、思

溪版本文に基づく判断される。

なお、この『摩訶般若波羅蜜經』でも、春日版には、日本伝存古写経系の

本文を参照して、字句を修正している箇所が見られる。⁸⁾

以上、右の五経について経本文を比較した結果、刻記による前稿の底本推定と同一結果が得られた。

それに加えて、春日版には、宋版本文に基づく製版後、日本古写経系本文による改訂が加えられていることも知られた。

四、経本文比較による底本の推定

以下、春日版中に宋版の刻記を見出せない諸経の底本推定のため、春日版と宋版との経本文比較を行なう。

6. 『梵網經』

春日版『梵網經』には、『大般涅槃經』以下、右諸経に見られた宋版刻工名等の刻記を見出せない。ただ、春日版巻下帖末に、思溪版と全同の釋音が

存する(前稿参照)。そのため、前稿では、『梵網經』の底本推定を保留した。次に、『梵網經』巻上経本文について、右の諸経と同様の対照をおこなう。

所在	春日版	東禪寺版・開元寺版	思溪版
0997a28	手執梵文	手攝胡文	(同)
0997a29	一百二十卷	一百二十卷	(同)
0997b09	梵網經	佛說梵網經卷上	佛說梵網經卷上
0997b09	盧舍那佛說菩薩心地品	菩薩心地品之上	菩薩心地品之上
0997b15	法門品	法門品	(同)
0997b27	一時禮敬	一切禮敬	(同)
0997c23	十長養心	十長養	(同)
0998b04	登無生山	躋無生山	(同)
0998c11	不無寂然	寂然	(同)
0998c12	玄假法性	(同)	云假法性
0998c20	不見緣	(同)・不生緣	(同)
0999a06	於一切衆生	救一切衆生	(同)
0999a17	入佛位中	入法位中	(同)
0999a28	亦内亦外	六内六外	(同)
0999c19	假名諸法	名假諸法	(同)
0999c27	若佛子直心者	若佛子直心者	若佛子直心者
1000a06	不位退	不住退	(同)
1000b16	反照見	(同)・及照見	(同)
1000b18	以心智知	以智知	以智知
1000b20	以一切智見	以一智見	(同)
1000c02等	三惡道刀仗	(同)・三惡道刀仗	(同)
1000c15	受煩毒時	受煩毒	(同)
1000c27	四大法水	四大湖水	四大湖水
1001a29	所謂諸佛	所謂說佛	所謂說佛
1001b06	一音說法	一音說	(同)
1001b15	空華觀智	華觀智	(同)
1001b29	爲妙樂國土	爲妙樂土	爲妙樂土
1001c10	天眼明智	以天眼明智	以天眼明智
1002a08	六品滿足	六品足	六品具足

1002a14: 自我弟子	自我弟子	自我弟子
1002a15: 無諸煩惱	無諸煩惱	(同)
1002a15: 解脱足	六通足	六通足
1002a21: 見現在十方	見現 十方	(同)
1002a22: 以神通智	以神通道智	以神通道智
1002b03: 大明定門 (高麗版も同じ)	大明空門	大明空門
1002b08: 下地所 (高麗版も同じ)	下地各所	下地各所
1002b12: 導師	大導師	大導師
1002b13: 法身	(同)	法身具足
1002b16: 平等門 中	平等門 中	平等門 中
1002b27: 十方十世界	十方三千世界	十方三千世界
1002b28: 中百億	百億	百億
1002c02: 光明相好莊嚴	光明相好莊嚴	(同)
1002c22: 是名正遍知	是 正遍知	是 正遍知
1002c24: 法佛去時	去佛去時	去佛去時
1002c25: 是名善逝	是名善逝	是名善逝
1002c27: 是人一切	人一切	(同)
1002c28: 無上士	世間解脱	世間解脱
1002c29: 故名爲丈夫	名爲丈夫	名爲丈夫
1003a05: 受記歡喜	授記歡喜	授記歡喜
1003a11: 可盡其源	可盡其源	可盡其源
1003a13: 梵網經菩薩心地品卷上	梵網經 卷上	梵網經 卷上

以上、『梵網経』卷上の春日版は、宋版に依ったとは考え難い異同を示す。たとえば、①では、春日版は、この一行を十八字として「心」を補入している。また、②では、春日版・思溪版ともに、当行に一字補入するものの、補入の文字が異なる。

卷下も、左のようである。

所在 春日版	東禪寺版・開元寺版	思溪版
1003b07: 梵網經	佛説梵網經卷下	佛説梵網經卷下
1003b07: 盧舍那佛説菩薩心地戒品	菩薩心地品之上	菩薩心地品之上
1003b14: 汝諸佛	汝諸佛子	汝諸佛子
1003b18: 及一切衆生	一切衆生	一切衆生

①1003b22: 光光皆化	光皆化	(同)
1003b27: 十世界海	十世界法門海	十世界法門海
②1003b28: 復從座起	復	(同)
1003c12: 光王座	光 座	(同)
1003c17: 金剛華光王座	金剛 座	(同)
1003c22: 一戒光明	一切戒光明	(同)
1003c28: 是一切衆生	一切衆生	(同)

以下、省略する。

春日版『梵網経』卷上・下は、東禪寺版・開元寺版よりは、思溪版に近い。しかし、右の本文比較結果から、春日版が思溪版に依ったとは考えられない。

右の①は、思溪版が「光」の一字を加えたため、春日版と一致した例である。思溪版のこの行は、一行十八字である。

同様に、②は、思溪版が「從座起」の三字を製板後に加えたため、春日版と一致する。思溪版の当該行は、一行二十字となっている。

この①②は、思溪版が日本古写経系本文を取り込んで本文を修正したために春日版本文と一致した例である、と解釈できる。

そうであれば、春日版『梵網経』本文の全体が、宋版ではなく、日本古写経と同系の本文に基づいたことも考えられる。この見通しのもと、『梵網経』日本および隋唐古写経数本を調査したものの、春日版と完全に一致するものはいまだ見出せない。今後の課題としたい。

7. 『仁王般若波羅蜜経』

『仁王般若波羅蜜経』も、卷上について、春日版と宋版諸本とを対照する。

所在 春日版	東禪寺版・開元寺版	思溪版
0825a11: 四諦十二縁	四縁十二縁	(同)
0825a20: 始生功德住生功德終生功德 三十生功德	始生功德	(同)
0825a22: 十一初人	十一初人	(同)
①0825a25: 三梵	三	(同)
0825a26: 諸天子 (高麗版も同じ)	(同)	諸天子
0825b03: 有無量化佛 (高麗版も同じ)	復有無量化佛	復有無量化佛

0825c12等：仁王護國般若波羅蜜經	仁王般若波羅蜜經	0825c12等：仁王護國般若波羅蜜經	仁王般若波羅蜜經
②0826a08：十二入空	十二入	②0826a08：十二入空	十二入
③0826b16：十力十八不共法	十力十八不共	③0826b16：十力十八不共法	十力十八不共
0826b24：寂滅忍上下	寂滅忍上中下	0826b24：寂滅忍上下	寂滅忍上中下
0826b25：名爲一	名爲一	0826b25：名爲一	名爲一
④0826c01：種性有十種心	種性有十心	④0826c01：種性有十種心	種性有十心
⑤0826c15：善覺地至	善地至	⑤0826c15：善覺地至	善地至
0827b25：住生德行名爲地	住生功德名爲地	0827b25：住生德行名爲地	住生功德名爲地
0827c06：化樂天王百億國	(同)	0827c06：化樂天王百億國	(同)
0827c08：法現開士自在王	(同)	0827c08：法現開士自在王	(同)
0827c10：能洗三界迷心惑	能洗三界迷心惑	0827c10：能洗三界迷心惑	能洗三界迷心惑
0827c15：觀第三義無二照	觀第三諦無二照	0827c15：觀第三義無二照	觀第三諦無二照
0827c18：圓照三世恒劫事	圓照三世恒劫事	0827c18：圓照三世恒劫事	圓照三世恒劫事
0827c22：灌頂菩薩五地王	灌頂菩薩五地王	0827c22：灌頂菩薩五地王	灌頂菩薩五地王
0828a02：登金剛原居淨土	登金剛原居淨土	0828a02：登金剛原居淨土	登金剛原居淨土
0828a05：口常說法非無義	常口說法非無義	0828a05：口常說法非無義	常口說法非無義
⑨0828a14：一切無量果報	一切無量報	⑨0828a14：一切無量果報	一切無量報
⑦0828a24：非相非無相無來无去	非無相無來无去	⑦0828a24：非相非無相無來无去	非無相無來无去
⑧0828a29：無六道	六道	⑧0828a29：無六道	六道
⑥0828b07：諸佛菩薩	諸佛菩薩	⑥0828b07：諸佛菩薩	諸佛菩薩
0828b18：諸忍法門	此忍法門	0828b18：諸忍法門	此忍法門
⑩0828b23：有十億	十億	⑩0828b23：有十億	十億
⑪0828c05：色心是	色心	⑪0828c05：色心是	色心
⑫0828c08：舌所得爲味	舌得爲味	⑫0828c08：舌所得爲味	舌得爲味
0828c20：是故佛佛	是故佛佛	0828c20：是故佛佛	是故佛佛
⑬0829a02：不可說	不可說	⑬0829a02：不可說	不可說
0829a04：波斯匿王自言第義諦	波斯匿王自言第一義諦	0829a04：波斯匿王自言第義諦	波斯匿王自言第一義諦
0829b20：非爲非文字	非非文字	0829b20：非爲非文字	非非文字
0829b20：修爲修文字者	修爲修文字者	0829b20：修爲修文字者	修爲修文字者

右の通りであり、宋版一切經に依拠した本文とは言えない。¹⁰⁾
 春日版は、宋版諸本の中では、やはり、思溪版に近い。①③は、春日版・思溪版がともに日本古写経系本文に依る修正を加えたために一致した例かと

思われる。春日版・思溪版は、①③の一行を十八字で彫り、東禪寺版・開元寺版は十七字である。
 しかし、②④⑤⑥⑧⑨⑩⑪⑫の春日版は一行を十八字、⑦⑬は一行十九字で彫り、思溪版は、東禪寺版・開元寺版と同じ、行十七字である。よって、春日版のみ、日本古写経系本文に従って、板を修正したものと考えられる。
 なお、書陵部蔵開元寺版は、異本校合により、④「種」・⑤「覺」・⑥「果」を墨書補入している。これによって、春日版と同じ本文を持つ経本が存したことが確認される。

8. 『仏垂般涅槃略説教誡經』

本経も、同様に本文対照した結果を記す。

所在 春日版	東禪寺・開元寺版	思溪版
1111a07：功德之所住處	功德住處	(同)
1111a12：如被賊害	如被劫害	如被劫害
1111a17：譬如有人手執蜜器		
1111a25：無得多求	無得多求	(同)
1111a28：亦無有廢	亦勿有廢	亦勿有廢
1111b22：者持應器	執持應器	執持應器
1111c11：欲求寂靜	若求寂靜	(同)
①1111c21：無如不念	如不念	(同)
1111c29：行者亦爾	行者	(同)
1111c29：故善修禪定	故善治禪定	(同)
1112a08：雖是肉眼	雖無慧眼	(同)
1112a15：所說利益	所欲利益	(同)
1112a18：知病說藥	如病說藥	(同)
1112a19：示人善導	導人善導	導人善導
1112b13：勿懷憂惱	勿懷憂也	(同)

右のとおり、本経も、①で行十八字として「無」を補入するなど、春日版は思溪版にちかい。だが、完全には一致しない。¹¹⁾
 しかし、春日版は、尾題下に千字文「羊」を彫る。これは、思溪版等『開元釋經録』の当該經千字文に一致する。思溪版を基として版下下書きを作り、それを、いずれかの本文によって修訂したものであろうか。¹²⁾

6. 『菩薩瓔珞本業經』

本經の卷上について、諸本の本文異同を記す。

所在	春日版	思溪版
①	1010b07: 重遊於泝沙王國 1010c24: 無量大寶藏海 1011a20: 不得其邊	東禪寺・開元寺版 重遊於泝沙王國 無量大寶藏 不得其邊 (同)
②	1011b14: 度羅諦流沙	羅諦流沙 (同)
③	1011c03: 十心順名字	十順名字 (同)
④	1012a17: 二十四願 1012b07: 又罪八萬四千	十四願 (同)
⑤	1012b17: 及心所行法 1012c18: 真如相菩薩	受罪八萬四千 及心所得法 如相菩薩 (同)
⑥	1013a04: 超度三魔 1013c28: 過去二無明諸行	(同)・超度三覺 過去二無明行 (同)
⑦	1014a15: 一諦二諦 1014a20: 天眼見	一 二諦 天明見 (同)
⑧	1014b24: 一乘法 1014b29: 若一劫二劫	一乘法 若一劫 (同)
⑨	1015c13: 一切定佛因果	一切佛因果 (同)
⑩	1015c14: 一切佛菩薩 1015c14: 一念一時	一切菩薩 一念一照 (同)
⑪	1016c22: 中有一種業	中有一種業 (同)

右のとおり、本經は、思溪版と比較的によく一致する(⑫は、春日版の誤刻であろう)。

①⑤⑪では、春日版・思溪版は同字を補入し、当該行を十八字とするため、両者本文は等しい。東禪寺版・開元寺版は、一行十七字である。

②③は、春日版のみ一字補入し、一行十八字としている。東禪寺版・開元寺版・思溪版は、他行同様、十七字である。

④の例では、増上寺藏思溪版は、上欄に「二イ」と異本本文を墨書注記している。高麗版も、東禪寺・開元寺版に同じく、「二十四願」である。よって、「二」は、思溪版の誤刻であると考えられる。

卷下は、次の様になる。

所在	春日版	思溪版
1017a11	未議三寶聖人	東禪寺・開元寺版 未識三寶聖人
①	1017b05: 清淨鮮白故	清淨鮮白故 (同)
②	1017b10: 從發住心不生倒	從發心不生倒 (同)
1017b18	於實得法忍心	法實得法忍心 (同)
1017c21	佛言	佛子 (同)
③	1018a07: 大喜觀喜前人受樂大捨觀	喜觀喜前人受樂捨觀 (同)
④	1018a17: 一入一出	一入一出 (同)
1018a25	坐千寶相蓮華	坐千寶相蓮華 (同)
1018b01	登大山臺	登大山臺 (同)
⑤	1018c09: 爲漸漸覺云何	爲漸漸云何 (同)
⑥	1018c24: 何以故而共一心	何以故而共一心 (同)
1019a15	苦惡因果	苦惡因果 (同)
1019a21	鏡爲日月歲數	珠爲日月歲數 (同)
1019b05	一心有百心故	一心有百心破 (同)
⑦	1019b07: 如是增進	如增進 (同)
1020a04	三正遍知	(同)・三正遍知 (同)
⑧	1020a15: 出煩惱道	出要煩惱道 (同)
1020a28	不解是三句者	有解是三句者 (同)
1020b19	應受觀學	應受學觀 (同)
⑨	1020b24: 若信女中	信女中 (同)
⑩	1020c22: 復敬受四不壞信	復敬受四不壞信 (同)
1020c22	依法四依法	依止四依法 (同)
1021b19	有犯得使悔	有犯得使悔 (同)
⑪	1021c18等: 非今心	非今 (同)
1022a04等	善或二心	善或二心 (同)
⑫	1022a05: 起色界	起色 (同)
1022b01	若一若二無別	若一無二無別 (同)
1022b21	第一弟子	(同)・第一弟子 (同)
1022c17	其聽法者	有聽法者 (同)
1023a02	百千萬佛轉授	百千萬佛轉授 (同)

右のとおり、卷下においても、本經は思溪版と比較的によく一致する。

①②⑤⑦⑨⑪⑫で、春日版・思溪版は同字を補入し、当該行を十八字とする。東禅寺版・開元寺版に補入は無く、一行十七字である。

しかし、③は、春日版のみ二字を補入し、一行十九字とする。④も、春日版のみ一行十八字である。⑥⑧でも、春日版だけが一行十六字とする。

これら本経巻上・下の実態から、本経では、春日版は思溪版に基づき製版の後、古写経系本文を参照し、補訂している、と考えられる。思溪版における補訂作業不十分な箇所、あるいは、思溪版の本文を採用しなかった箇所が、春日版との異同として右に挙がったものと思われる。下巻⑩は、「佛子復敬」の「敬」を思溪版が欠筆しているながら、春日版では欠筆としない例である。

五、結び ― 春日版『五部大乘経』の底本 ―

本稿の目的は、鎌倉後期に開版された春日版「五部大乘経」の底本を、経本文の比較によって特定することであった。

本文比較の結果、春日版「五部大乘経」のうち、『大般涅槃経』は東禅寺版補刻本、『大般涅槃経後分』『大方広仏華嚴経』『大方等大集経(日藏経・月藏経を含む)』『摩訶般若波羅蜜経』は思溪版に基づくことが確定になった。⁽¹³⁾

ただし、同時に、宋版の底本文に基づく製版後、春日版は、日本古写経系本文による改訂を加えていることも知られた。

また、春日版『梵網経』『仁王般若波羅蜜経』『仏垂般涅槃略説教誡経』『菩薩瓔珞本業経』は、東禅寺版・開元寺版よりは思溪版に近いものの、宋版一切経に依拠したものではない、と考えられた。これらは、春日版に宋版刻記が見られない諸経であった(前稿)。それが偶然ではなかったことが、本稿の検討によって確認された。これら以外に、伝統的な春日版風の書体で彫られた『妙法蓮華経』『無量義経』『観普賢経』、および疑経『像法決疑経』も、春日版は宋版一切経を底本としていない。

鎌倉後期刊刻春日版「五部大乘経」は、新来の宋版一切経を取り込んだ。しかし、それは、全面的・無批判な宋版撰取ではない。宋版本文に依拠する経を選択し、古来の経本文をも採用して、印本を作成している。

宋版に依らない経本の底本は何か、宋版思溪版の修訂に使用した経はいずれのものかをつきとめることが、本稿の発展的課題として生じている。

【注】

(1) 春日版「五部大乘経」は、日本各地に伝存する。佐々木勇「鎌倉時代における「五部大乘経」構成経の転換に見られる宋版一切経の影響」(『鎌倉遺文研究』第38号、二〇一六年十月)、参照。

(2) 思溪版『大般涅槃経』は一行十八字が基本であるため、一行十七字の春日版・東禅寺版とは、全体に亘り、改行箇所が異なる。改行箇所のみ相違および明らかな誤刻は、掲出を省略する。また、思溪版との以下の字体異同も、省略した。「春日版」脇―「思溪版」脅、烟―煙、炎―燄、修―脩、余―爾、礼―禮、逃―逃、匏―麤、逃―逃、坐―座、悟―寤、驅―駟、旃―旃、嘿―默、堤―隄、并―併、奸―姦、怪―恠、真―眞。

(3) 本経では、春日版・思溪版は一行十八字または十九字、東禅寺版・開元寺版は行十七字であるため、春日版と東禅寺版・開元寺版との改行位置は、大部分異なる。

(4) なお、『大般涅槃経後分』を東禅寺版・開元寺版は126賓に入れ、思溪版は125率に入れる、という相違もある。春日版は、千字文号を梵字に変更しているため、どちらであるか分からない。

(5) たとえば、春日版『大方広仏華嚴経』巻第二「040404 恭敬」では、春日版は思溪版「敬」の欠筆を欠筆のまま彫っている。東禅寺版・開元寺版は、同一箇所を欠筆にしない。なお、この対照作業により、春日版は、思溪版に依拠しつつ、日本古写経系本文も取り込んでいることが知られた。この点は、佐々木勇「春日版「五部大乘経」本文と底本選択理由」(『国際仏教学大学院大学附置日本古写経研究所編「日本古写経研究所研究紀要」第2号、二〇一七年三月刊行予定)を御覧頂きたい。

(6) 詳細は、右注佐々木論文を御覧頂きたい。

(7) 例えば、前稿の検討で思溪版を底本とする刻記が見られなかった巻第十二では、春日版「0299c17:佛十右」が、東禅寺版・開元寺版・思溪版いずれも「佛十力」となっており、「右」は春日版の誤刻であると判断される以外は、春日版本文は、すべて思溪版に一致する。春日版本文が東禅寺版・開元寺版と異なるのは、十一箇所であった。

(8) 注(5) 佐々木論文、参照。

- (9) 春日版『梵網経』は、大正蔵が底本とする高麗再雕版と一致する場合が多いものの、これも春日版『梵網経』と完全に一致するものではない。
- (10) 東禅寺版・開元寺版『仁王般若波羅蜜経』所収の第72翔函には音釈帖があり、『仁王般若波羅蜜経』巻上・下の音釈も刻され、思溪版『仁王般若波羅蜜経』にも巻末音釈が存する。しかし、春日版には、巻上・下ともに音釈は無い。
- (11) 元版（普寧寺版）をも比較してみた。しかし、結果は同様であった。
- (12) 修訂のための本文として、日本伝来古写経が考えられる。しかし、七寺本・金剛寺本等に一致する箇所も存するものの、別の異同も多い。なお、書陵部蔵宋版一切経『仏垂般涅槃略説教誡経』（開元寺版）には「111a12:

如被劫害」上欄に「賊」が墨書され、「111a12:」譬如有人手執蜜器」が本文右に補入されている。「112a19:」示人善導」も、「導」の右傍に「示」の書き込みが有る。よって、春日版のごとき本文が、別に存したことは間違いない。

(13) なお、東禅寺版・開元寺版・思溪版とも、一面六行である。帖装の折りしろとして、六行ごとに、若干の空間を空けて彫っている。しかし、東禅寺版・開元寺版は、巻首に題記が有るのが基本であり、六行ごとの纏まりが題記の無い思溪版とは異なる。春日版にも題記が無いため、春日版の六行の纏まりは、東禅寺版・開元寺版には合わず、思溪版と一致する。

The South Song Dynasty Edition of the Buddhist Canon (宋版一切經)
Which Became Original Text of Kasuga Prints (春日版)
the Five Volumes of Mahayana Sutras (五部大乘經) (2)
— It depends on comparison of the sutra book sentence —

Isamu Sasaki

Abstract : The Five Volumes of Mahayana Sutras (Hoke-kyo (法華經), Kegon-kyo (華嚴經), Nehan-kyo (涅槃經), Daijik-kyo (大集經), Daibon hannya-kyo (大品般若經)) were printed at Kofuku-ji (興福寺) in Nara. Those were called Kasuga prints (春日版). Those were printed in the latter period in Kamakura era. The purpose of this thesis is to specify a dependence book of the Five Volumes of Mahayana Sutras.

The next things were found by this thesis.

1. A dependence book of Nehan-kyo (涅槃經) is Touzenji-ban hokokubon (東禪寺版補刻本).
2. Dependence books of Kegon-kyo (華嚴經), Daijik-kyo (大集經) and Daibon hannya-kyo (大品般若經) are Sikei-ban (思溪版).

However, I also found out that Kasuga edition has revised the text by old copied sutras in Japan.

Key words: the South Song Dynasty Edition of the Buddhist Canon, the text of Kasuga prints,
the Five Volumes of Mahayana Sutras, the old copied sutras in Japan

キーワード : 宋版一切經, 春日版, 五部大乘經, 日本古写經